

棚板用金物 施工説明書・お取り扱い説明書

※施工終了後、お施主様へお渡し下さい。

- ▲安全の為に下記内容を必ずお守り下さい。
- ▲棚板に腰掛けたり、登ったり、もたれたり、体重をかけたりしないで下さい。
 - ▲棚の下に入らない様にして下さい。
 - ▲不安定なものなど乗せない様にして下さい。
 - ▲耐荷重(10kg)の目安内でご使用ください。
- 上記項目を怠るとケガや事故の原因となります。

施工前にこの説明書をよく読み、正しく施工してください。

- この商品は屋内用ですので、屋外や水がかりする所には使用しないでください。
- 高温、高湿の環境条件では使用できません。
- 金具の取付けは水平、垂直とねじれがないかを必ずご確認ください。
- 棚受け以外には使用しないで下さい。

▲安全についてのご注意 <ケガや事故を防止するため以下の事項を必ずお守りください。>

- ▲運搬作業時は滑り止めの手袋を着用して下さい。
- ▲引渡し前に工事管理者が必ず点検を行い、不具合の箇所を補修してください。
- ▲取付可能な棚サイズは、奥行き250mm、長さ1,800mmまでです。
- ▲取付する棚板は厚み3.2mm以上の専用カウンターをご使用ください。金物は必ず3本ご使用ください。
- ▲耐荷重については、中心耐荷重10kgを目安として下さい。

施工前の確認

- 加工前に、部材の数量・キズの有無を御確認下さい。施工後のキズは当社では責任を負い兼ねます。
 - 金具を取り付ける壁面に十分な強度が有り、垂直がでていることを確認ください。
 - 取り付け部分に必ず十分な強度のある下地 (t 12mm以上の合板) があることを確認ください。
- ※石膏ボード面を介した施工は時間経過とともに傾きがでるため避けてください。

▲施工後の安全についてのご注意

- ▲棚板に腰掛けたり、登ったり、もたれたり、体重をかけたりしないで下さい。
 - ▲棚の下に入らない様にして下さい。
 - ▲不安定なものなど乗せない様にして下さい。
 - ▲耐荷重(10kg)の目安内でご使用ください。
- 上記項目を怠るとケガや事故の原因となります。

施工に必要な工具

・ドライバー ・スパナ(SW10) ・水準器

同梱部品一覧

K X A O O O O Δ 1 4 ☆ K				
KH-9				
名称	棚板用カウンター	施工説明書	棚板用金物	取り付けビス
形状				
個数	1本	1枚	3個	6個

※KH-9には棚板用金物と取り付けビスのみが入っております。 SS-110-001-AI-03

アイカ工業株式会社

ホームページアドレス
http://www.aica.co.jp/

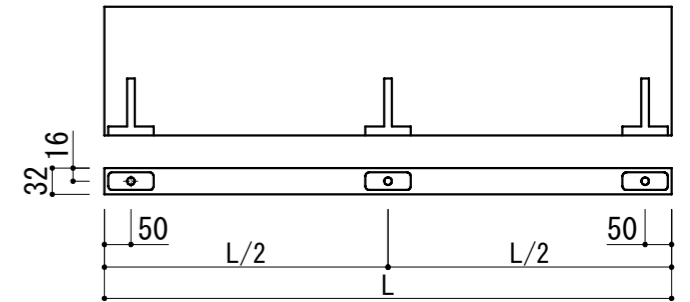


アイカ問合せセンター ※フリーダイヤルは、携帯電話・PHSの一部のIP電話等からはご利用になれない場合がございます。
TEL <0120> 525-100 TEL <052> 409-8313 FAX <052> 409-1482

金具取付

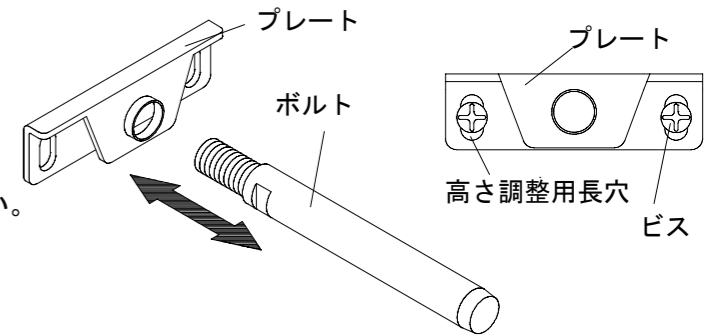
1. 棚板取付位置の墨出し

- ・壁面が垂直であり、不陸がないことを確認ください。
- ・金具が固定できる下地 (t 12mm以上の合板) かどうかを確認ください。
- ・カウンター表面水平線の高さを基準線として壁面に墨出しして下さい。



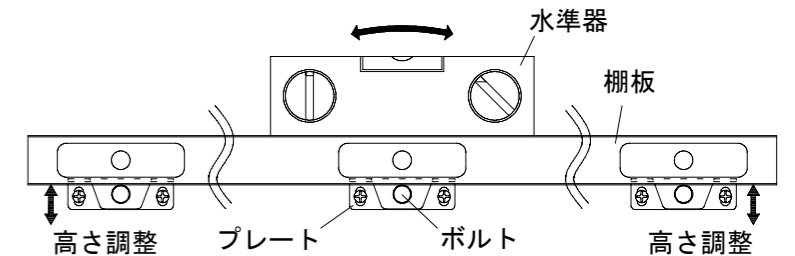
2. 棚板用金具取付位置の墨出し

- ・棚板の基準線を元に金具取付位置の墨出しをして下さい。
 - ・棚板奥側の加工位置に併せて取付位置を決めて下さい。
 - ・ボルト部分はプレート中央です。プレート固定用のビスはプレート中央より左右27mmのところに打ち込んでください。
- (標準の穴加工は棚板両端より50mmと棚板中央の3ヶ所にボルトが入る加工です。)



3. 金物の取付

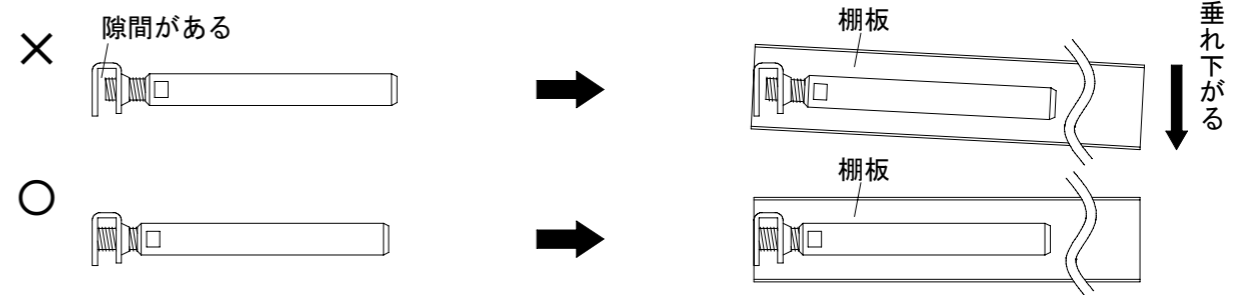
- ・プレートにボルトを差込みます。
- ・同梱のビスにて金物を壁面に仮固定させて下さい。
- ・棚板をボルトの上に乗せ、プレートの長穴部分で高さを調整し、調整後に金物を壁面に本固定させてください。



4. 棚板の取付

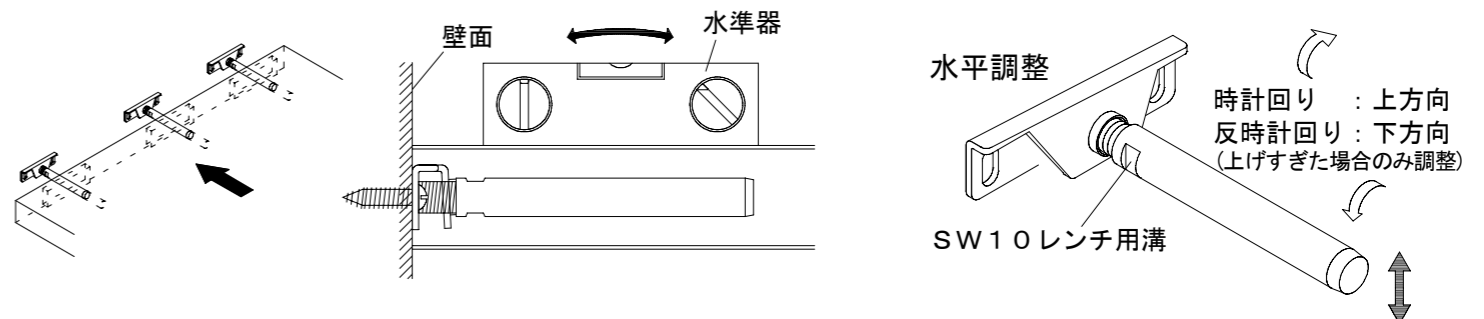
- ・プレートに対してボルトが底付きするところまでボルトを差し込みます。

▲ボルトがプレートに底付きしていない場合、カウンター先端の垂れにつながりますので必ず実施ください。



- ・棚板をボルトに差し込み、奥行き方向の水平を確認します。
- 水平がでない場合は、少し棚板を引き抜きSW10のレンチでボルトを回転させ、水平の調節を行います。

①棚板をボルトに差し込む → ②水平確認 ※水平が出ていない場合 → ③棚板を少し引き抜きボルトを回して調整



- ▲上に上げる調整が基本となります。上げすぎた場合のみ下への調整を行ってください。
- ▲最初から下への調整が必要な場合、壁面の垂直がでない場合があります。
- ⓧボルトがプレートに対し底付きしないよう調整は行わないでください。